



扉【とびら】

宇部市立藤山中学校
3月号（最終号）
2021. 3. 22発行

明日の元気のために

校長 海 頭 巖

桜花を愛でる季節、皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

藤山中学校の校長として着任し5年の歳月が経ちました。生徒・保護者・地域の皆様、そして教職員の仲間たちに支えられ、お陰様をもちまして、校長としての5年間と教員としての36年間を無事に、かつ充実したものとして終えることができます。今、胸中に去来するものは、唯々『感謝』です。

学校だより『扉』を5年間綴り続けることができました。平成28年4月号（第1号）にタイトルを『扉』にした理由を記していました。

私たちは『未来の扉』、『現在の扉』、『過去の扉』の『三つの扉』に囲まれて生活しています。子どもや若者は、『未来の扉』をよく開け、夢を見ています。私をはじめ中高年は、子育てや仕事に追われ『現在の扉』を開けるのに忙しい毎日です。そして更に年を重ねていくと、若いころを懐かしみ『過去の扉』にこだわったりもします。人は男性も女性も、老いも若きも、『三つの扉』を絶えず上手に開けてこそ、充実した人生が送れるのだと思っています。生徒たちが将来、品格のある幸せな時代を築いていってくれるかどうかは、私たち大人のあり方が大きく影響してきます。たかが『学校だより』かもしれませんが、『教育の力』によって、「低いところから高いところ」に向かって『未来の扉』を開ける鍵の一つになればと思い、タイトルを『扉』にしました。

途中平成29年3月号は肺ガン治療の入院により、流石に執筆することができず、1回休刊したのがとても残念ですが、ご愛読戴いた方からのお声がけや、ファンレターならぬ激励のお葉書やお手紙をくださった方々など、強い味方があったお陰をもちまして、どうにか最終号（通算59号）を迎えることができました。『学校だより』の教育力によって『未来の扉』を開く鍵の一つになったかどうかは定かではありませんが、やり通した感一杯です。浅学非才な私なので、拙い文章の内容や言い回しで、読みづらくさせたこともあったかと思ひます。今更ながらご容赦願います。

さて『450人から353人へ』。何の数字かお分かりいただけるでしょうか。藤山中学校の5年前と現在の生徒数の変化です。まさに少子化を表しています。しかも来年度は326人でスタートです。少し寂しい思いがします。

先日卒業生を見送ったばかりですが、在校生たちも、もうすぐ新たな学年となり、夢の実現に向けて、ますます成長してくれることと思います。残念ですが、その成長ぶりを側で見ることは叶いません。私も人生の新たな舞台（セカンド・ステージ）でワクワク感を味わいながら生活できればと思っています。

『一燈照隅』。誰もがみんな、自分らしい灯りの輝きを灯し続けて、その道を歩んでいきましょう。『生きがいのある人生』とは生涯かけて身につけた『自分力』を人や社会のために役立てて、周りの人々に喜びを広げてあげられるようにすることだと思います。笑顔と感謝であふれる場所へ自分と共に関わる人たちを運び出してあげましょう。

皆様のご健勝とご発展を心から願いつつ、学校だよりの扉を閉じさせていただきます。お仕合わせに。ありがとうございました。